

第2代大館市長 石川 芳男氏

(昭和42年～昭和54年)



市長就任のころの思い出や
当時の広報についての印
象はいかがでしたか

昭和四十二年の四月二十八日の選挙で、幸いにも当選することができたんだけど、就任当時は選挙時の公約を早く実現することはいっぱいだったから、実は広報についてはあまり記憶が定かではないんです。もう二十二年にもなりますからねえ。今でも覚えていることは、これは内部の問題だけれども、市民のための市役所なんだから市民に親切にするようにということが第一。第二には能率を上げなくちゃならないということ。よく役所仕事というのは能率が上がらない代表みたいに言われるもんだからね。三番目は、最小経費で最大の効果を上げる行政にしなければならぬということ。これは職員に対する要望ということだったんですがね。

広報の役割についてはどう
お考えでしたか。また編
集についてのお考えは

行政に対して市民の理解を求めて、その協力を願うというのが一番大きな目的だし、そういう意味でやっぱり広報は大きな役割を果たしたんじゃないかな。新聞でも同じだけれど、まず公正でなければならぬし、そして迅速でなくちゃいけない。それから確実でなければならぬ。そういったことを私は要望していたように思うんですよ。当時は総務課が広報を担当していたんだけど、私は直接にアドバイスとかしなかった。信頼してね。助役、総務課長、その他担当者というわけだから。苦情・好評・大ミスなど、市民からの広報への反応はどうでしたか

私に対しては広報についてうんぬん言う人はいなかったですね。担当者へというのはあったのかもしれないが。

市長当時の思い出に残った
仕事やエピソードなどを
聞かせてください

一番は何といっても花矢町との合併ですね。当時財政的には非常に良かったんですよ。花矢町は、鉱山が全盛時代でね。ところが、大館市は病院や水道の問題があったりね、決して魅力ある合併とは言えないというよ



本桜などですな。

大文字はね、明治から百年、近代日本の黎明を記念した事業であったんだけど、大館の大でもあるし将来の大にもつながるということだね。それにお盆の迎え火ということもあったし、大火があったから火伏を祈るという意味も込めてね、もちろん大館の名物になるだろうという気持ちもあったわけですよ。

現在の広報はいかがでしょう。うか。ご感想やご意見などはありますか

よくやってるなあと、これはおべっかでなくそう思いますよ。月一回だったでしよ前は。今は月二回にしているね。月一回だったらまだ五百回にならないはずだね。

情報化時代と言われる今日

ですが、広報を含めて大切なことは何でしょう

これはあなたの方が専門だろうけど、あえて言わせてもらえば、情報というのは集めることも大事だし、これを伝えることも大事。だから両面でね、十分気をつけなければいけないかと、当たり前のことだけれども。一番怖いのは間違った情報に基づいて行動を起こすこと。大東亜戦争だってそうでしょう。正確な情報を幅広く収集して、それを正確に伝達するということが重要だと思いますよ。